

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

栽培を楽しむ～コンニャク玉～／福島市立庭塚幼稚園（福島県）

子どもたちの興味・関心を捉えた植栽を選んでいますか？
また、種蒔き・植え付けや収穫だけでなく、育てる過程における子どもたちの関わり方に注目していますか？

植物の生長過程で、子どもたちは、様々なことを発見したり気付いたりします。また、それらを友達と共有することで、益々興味を深めていきます。今回は、保育者が子どもたちの自然との関わりがより豊かになるようにと、環境の工夫を図っている園の事例をご紹介します。



● コンニャク玉が生長した喜び／4～5歳児

昨年度、コンニャク玉（地域の栽培農家から2年玉を譲っていただいた）を育て、コンニャクを作って食べる経験をした5歳児は、他の野菜や草花への興味が広がり、観察を楽しんでいた。そして、今年度もコンニャク玉の栽培をすることになった。



✦ 5月22日：みんなでコンニャク玉を植える

- ・「角は上だよね」「コンニャク（玉）の角、鬼の角みたいだね！」などと言いながらコンニャク玉を植える。
- ・「大きなコンニャク玉になるといいね！」と期待感をもって鉢に植える。
- ・登・降園時に観察できるように、玄関に鉢を置き、自分たちが植えたコンニャク玉が分かるように、みんなで表示を付ける。
- ・興味をもって観察できるように、子どもたちの目に付く玄関の壁に、保育者は、コンニャク玉の変化の様子を掲示（写真とコメント）する場を作る。植え付けるコンニャク玉と同じ大きさの模型のコンニャク玉を作って掲示する。



✦ 5月26日：芽が出る

- ・登園したSちゃんが「コンニャク（玉）の芽が出てる！」と発見する。
- ・「見に行こう！」と周りにいた友達がコンニャク玉の鉢に駆けていく。

- 保育者は、Sちゃんの発見を受け止め、周りの子どもたちにも知らせる。
- 子どもたちは、「明日大きくなってるかな」と生長を楽しみにしている。
- 保育者は、子どもたちの興味を捉え、生長を測れるもの（ボール紙の定規）を子どもと共に準備する。

✦ 6月10日～：測ってみたい！

- 登園してきたDちゃんが芽を測ってみたいと言う。測りたい気持ちを受け止める。Dちゃんは、喜んで測りに行く。
- Dちゃんが「どのくらい伸びたかな？」と、測った様子を学級全体に知らせる。
- その後、他の子どもたちも、友達と声を掛け合って芽を測ることを楽しむ姿が見られた。

✦ 6月11：緑の葉が出てくる

- 降園前、水やりの当番の子どもたちが玄関の花の水やりをしていた。
- Aちゃんが、緑色の葉が少し出てきていることに気づき、「コンニャク（玉）から緑の出てる！」と驚いた様子で保育者に伝えに来る。
- 降園する時に「本当だ！」とよく観たり、迎えに来た保護者に、「緑のどこ出てきたんだよ」と伝えたりしていた。
- 保育者は、生長過程における変化を全員で共有できるように、学級のみんなにAちゃんから、緑の葉が出てきたことを話す場を降園前に設ける。
- 朝は出ていなかった緑の葉の部分が、午後になって出てきたのを見付けて、とても驚いていることが感じられた。



✦ 7月2日：背比べ

- 背比べをする姿が見られる。
- 生長を実感できるように、「Sちゃんとコンニャク玉、どっちが大きいかな？」と言葉をかけたり、子どもたちの思いに共感したりする。

✦ 7月16日：コンニャクの茎に気付く

- Bちゃんが、「コンニャク（玉）の茎ってヒョウみたいだね！」と茎の模様を発見し、周りいた友達に知らせている。
- 他の友達も、「ヒョウ柄だね！」「コンニャク（玉）は、強いのかな？」などと茎を見てつぶやく。
- 保育者は、茎に気付いたことを認める言葉をかける。夏休み中の生長に興味や期待感をもてるように、夏休み前にみんなで観察して、気付いたことを共有できるような機会を作る。



✦ 8月25日：葉っぱが傘みたい！

- 葉っぱの下に入り、「傘みたい！」「でもこれじゃ、濡れちゃうね」などと友達同士で言い合い楽しむ。
- 「ウー傘みたい！」と大喜びで生長を喜び合う。
- 夏休み明け、たくさん葉が伸びていることが分かった、「こんなに伸びてたよ！」と友達に教えたり、丈を測ったりする姿が多く見られた。
- 「大きくなるといいね！また美味しいコンニャク食べたいよね！」と子どもたちの期待は、膨らんでいった。

- 保育者は、「本当だ！傘みたいだね」と子どもたちと共にコンニャク玉が大きく生長したことに共感していく。



✦ 9月2日：雨降りが続き心配

- 「先生一雨ばかりで、コンニャク（玉）の葉っぱがかわいそう！」と、子どもたちがつぶやく。
- 保育者は、「本当だね！葉っぱがぐったりしているね！早くお日様が照ってくれるといいのにね」と子どもたちの思いに共感していく。



✦ 考察

- 昨年度、地域の方のご協力のもと、コンニャクを食べるという体験をしたことは、今年度の栽培に意欲をもって取り組むことに繋がったと思われる。
- 生長の過程に期待感や興味もてるように環境を工夫したことで、日々生長する様子から様々な発見や気づき生まれ、自分から積極的に関わる姿に繋がっていったと考える。
- 幼稚園に来るとすぐに目に付く所に鉢を置いておいたことで、日々の登・降園時に興味をもって観察する姿が見られた。また、保護者の方々にも関心をもってもらう良い機会になった。
- 一人一人の子どもの気づきや発見があったときに、周りの友達に伝えたり、学級みんなに知らせたりできるような橋渡しをし、場を設定したことで、友達に広まり、コンニャク玉への関心が高まり、興味が深まっていったと考える。
- 昨年度、コンニャクを食べた経験を栽培の中で振り返り、期待をもたせながら取り組んできたことは、子どもたちにとって、「コンニャクを作り食べること」が大きな目標になり、みんなで大切に育てようという気持ちを育めたのではないかとと思われる。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」